

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成 25 年 1 月 24 日 (2013.1.24)

【公表番号】特表 2011-509218 (P2011-509218A)

【公表日】平成 23 年 3 月 24 日 (2011.3.24)

【年通号数】公開・登録公報 2011-012

【出願番号】特願 2010-540841 (P2010-540841)

【国際特許分類】

B 6 5 D 81/32 (2006.01)

B 6 5 D 77/04 (2006.01)

B 6 5 D 30/22 (2006.01)

B 6 5 D 65/40 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 81/32 D

B 6 5 D 77/04 F

B 6 5 D 81/32 B

B 6 5 D 30/22 F

B 6 5 D 30/22 G

B 6 5 D 65/40 D

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 12 月 8 日 (2011.12.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器であって、

第 1 のチャンバ、第 2 のチャンバ、および第 3 のチャンバと、

該第 1 のチャンバと該第 3 のチャンバとを仕切る、第 1 の剥離可能なシールであって、  
該第 1 の剥離可能なシールは、該第 1 のチャンバに外圧を選択的に印加することにより、  
独立して開放可能である、シールと、

該第 2 のチャンバと該第 3 のチャンバとを仕切る、第 2 の剥離可能なシールであって、  
該第 2 の剥離可能なシールは、該第 2 のチャンバに外圧を選択的に印加することにより、  
独立して開放可能である、シールと

を備え、該第 1 のチャンバは、横開口部を画定する永久シールによって該第 2 のチャン  
バと仕切られ、該横開口部は、ヒトの手が該外圧を印加することを許容するように寸法決  
定され、該第 1 のチャンバおよび第 2 のチャンバのうちの少なくとも 1 つは、該外圧を印  
加するための個別のチャンバの片手把持を容易にするように寸法決定される、容器。

【請求項 2】

前記第 3 のチャンバは、非経口的に投与可能な基礎液を含有する、請求項 1 に記載の容  
器。

【請求項 3】

前記第 3 のチャンバは、空であり、前記第 1 のチャンバおよび前記第 2 のチャンバの全  
内容物を含有するようにサイズ決定される、請求項 1 に記載の容器。

【請求項 4】

前記容器は、ポリオレフィン、ポリアミド、ポリエステル、ポリブタジエン、スチレン

と炭化水素とのコポリマー、ポリイミド、ポリエステル - ポリエーテル、ポリアミド - ポリエーテル、およびそれらの組み合わせから構成される群より選択される、少なくとも 1 つの材料を含むフィルムで作製される、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 5】

前記フィルムは、ポリエチレンホモポリマー、エチレン - オレフィンコポリマー、ポリエチレンコポリマー、ポリプロピレンホモポリマー、ポリプロピレンコポリマー、スチレンと炭化水素とのランダムコポリマー、スチレンと炭化水素とのブロックコポリマー、およびそれらの組み合わせから構成される群より選択される、少なくとも 1 つの材料を含む、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 6】

前記第 1 の剥離可能なシールおよび前記第 2 の剥離可能なシールは、約 3 N / 15 mm から約 30 N / 15 mm に及ぶ力によって作動させられる、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 7】

前記第 1 の剥離可能なシールは、第 1 の作動力を有し、前記第 2 の剥離可能なシールは、第 2 の作動力を有し、該第 2 の剥離可能なシールの作動力は、該第 1 の剥離可能なシールの作動力よりも大きい、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 8】

前記第 1 の剥離可能なシールの作動力と前記第 2 の剥離可能なシールの作動力との間の差は、約 1 N / 15 mm よりも大きく、かつ約 5 N / 15 mm 未満である、請求項 7 に記載の容器。

【請求項 9】

前記第 3 のチャンバと流体連通する流体出口ポートをさらに備える、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 10】

前記第 3 のチャンバから前記出口ポートを仕切る、剥離可能な安全シールをさらに備え、該安全シールは、前記第 1 および第 2 の剥離可能なシールのうちの少なくとも 1 つが最初に開放されない限り、該安全シールの開放を妨害するように選択される、シール強度を有する、請求項 9 に記載の容器。

【請求項 11】

前記第 1 のチャンバおよび前記第 2 のチャンバのうちの少なくとも 1 つと流体連通する管をさらに備える、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 12】

前記第 1 のチャンバ、第 2 のチャンバ、および第 3 のチャンバは、少なくとも 2 重の可撓性ポリマーフィルムの間に形成され、前記横開口部が該重なりを通して画定される、請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載の容器。

【請求項 13】

前記重なりの間に形成される第 4 のチャンバと、

前記第 3 のチャンバと該第 4 のチャンバとを仕切る、第 3 の剥離可能なシールであって、該第 3 の剥離可能なシールは、該第 4 のチャンバに外圧を選択的に印加することにより、独立して開放可能である、第 3 の剥離可能なシールと

を備え、前記第 1 のチャンバと前記第 2 のチャンバとを仕切る前記永久シールは第 1 の永久シールであり、該第 2 のチャンバは、該重なりを通る第 2 の横開口部を画定する第 2 の永久シールによって該第 4 のチャンバと仕切られ、両方の横開口部は、ヒトの手が該外圧を印加することを許容するように寸法決定され、該第 1 のチャンバ、第 2 のチャンバ、および第 3 のチャンバのうちの少なくとも 1 つは、該外圧を印加するための該チャンバの片手把持を容易にするように寸法決定される、請求項 12 に記載の容器。

【請求項 14】

前記第 3 のチャンバと流体連通する流体出口ポートをさらに備える、請求項 13 に記載の容器。

## 【請求項 15】

前記第3のチャンバから前記出口ポートを仕切る、剥離可能な安全シールをさらに備え、該安全シールは、前記第1、第2、および第3の剥離可能なシールのうちの少なくとも1つが最初に開放されない限り、該安全シールの開放を妨害するように選択される、シール強度を有する、請求項14に記載の容器。